



帯山中学校入学式 参加しました

本日10(水)に帯山中学校の入学式に参加しました。生徒たちは進学し、二つ目の義務教育を学ぶ中学校での入学ということになります。入学式は、学校や先生、そして友達とのつながりを築くための大切な行事です。式の中では、吹奏楽の生演奏による入退場や歓迎の言葉など、様々な工夫によって、新入生たちを迎えてくれました。新一年生たちを大切にしてくれる姿勢がとても有難かったです。



また新入生は、入学式を通して、帯中の集団に所属することや、集団で学び合うことの大切さを実感していたようです。式の中では、帯西出身の木山太陽さんが新入生代表で誓いの言葉を「私は小学生の頃、企画委員会の一員として、学校を盛り上げるイベントを企画運営し、自分たちが考えたアイデアが採用されることや協力して仕事を進めていくことにやりがいを感じ、中学校でも生徒会で先頭に立って活動したいと考えています。(中略)新型コロナウイルスの感染症のパンデミックや、ロシアによるウクライナ侵攻、能登半島地震など、予測不能な現代社会を生きる私たちは、様々なことを他人事として捉えず、自分事として行動していくことが大事だと実感しています。私たち新入生一同はそれぞれの夢に向かって努力し、『おかげさまで』の精神や支えてくれている方々への感謝の気持ちを忘れず、悔いのない3年間を過ごすことをここに誓います。」と、帯西で学んだことを取り入れた抱負を述べていました。新一年生は、中学校生活のいいスタートを切ったと思います。

初めての給食

今日は、初めての給食が提供されました。今月の献立予定表にもあるように、給食は、子供たちが一日に必要な栄養量の1/3が摂れるように考えてあるのです。私の私見では、これだけの多くの人数に提供する食を、バランスよくコストを抑えながら短時間で作っているのは、世界でも日本だけだと思います。今日の献立は、豚肉と筍(たけのこ)のみそ炒めやすまし汁、小魚の佃煮でした。2年生の子供たちは「タケノコがすごく美味しい!タケノコでご飯をたくさん食べています。」「嫌いな野菜が入っているけど、タケノコや豚肉の味が野菜にしみていて、美味しく食べることができています。」と言って頬張っていました。



栄養教諭の二ノ村先生は「今日から給食室も新しいメンバーでの給食づくりがスタートしました。みんなで声を掛け合いながら安全・安心で美味しい給食を届けたいと思います。初日の献立は、生の筍を使ったみそ炒めです。旬の筍を味わえるのは今の時期だけです。四季折々の食材が給食では登場するので、美味しい食べ物と一つでも出合ってもらえたらと思います。」と述べています。これからも帯西の美味しい給食を食べて、心も体も成長して行って欲しいと思います。



「筍(タケノコ)」という字は、一句(いちじゅん、10日間)で竹になることが由来といわれています。「雨後の筍」という言葉が示すように、条件が整うと次々に伸び始め、1日に121cm伸びたという記録もあるそうです。